

大阪の旗

II-3
72.10.20

南大阪の旗編集委員会
連絡先 大阪市西成区東田町中澤第3会館
30円

四 次

☆競争 金ヶ崎に向けた彈圧計画

ヘセニ年五月一日～九月十四日

☆金ヶ崎レポート その二

☆光洋争議大つりノトヨミト

五
平生がモロコシ。

☆金ヶ崎は活火山である

六
☆継続した厨いの基盤をア

☆共同作業の一ノハの拡大をア

(1)

金ヶ崎レポート その三

《夏祭りへの弾圧》

八月十三日から三日間に亘って通称三角公園を

会場に「金ヶ崎夏祭り」が奉行された。

それは五、二八以降の鉢不組を踏台とした弾圧の下で善戦したながらも準備されたそのの痛打であった。

会場の三角公園は西成署から西メートルと離れていた。とにかくひしめく、ノミ屋が大手を振つて商店街に「金ヶ崎夏祭り」が奉行された。

危できるところであり、同時に中小博徒暴力団の最大のテラ銭かせきの場なのである。彼ら寄生虫共はありとあらゆる方法で労働者を腐臭に満ちた場に引寄せ出そうとする。もちろんホリ公は見えてゐる

ヤクサの暴力支配と警察の暴力支配とは全く矛盾するものでない以上、そのことは当然のことであるといえる。

「夏祭り」が労働者自らが自らを祭る場である以上、身造りのメバーやカクなどのあ、こと、それを三角公園という場で貴重に切ることは、非常に重要な意味を持つ。奴らにとってはまさに「犯罪的」なのである。当然のことく、右翼、ヤクザ、警察、という三馬鹿兒かたちは、手を変え品を変え筋書きと色気を示して来た。三角公園で労働者の身に務ることは、セントーのそれより隠装の釜ヶ崎秩序を根庭から、くつかえられることにつながるからだ。

八月十三日、夏祭りオーラ日目の日程は、のど自慢、大会から映画に移る時のヤクザに電線を切られると、いう妨害を除いては一応無事に終った。くなく11時半頃、三角公園を根城にするノミ屋裏力団溝橋組は組員一人が実行委メンバーに立ちどんをつけたのを合団と一緒におさりかかって来た。労働者が一斉引き上げを頃を叶はからつて、木刀・バット等の武装による殴打ちであった。

十二時二十分の雨が止むなれば盆踊りは、いつ終わるか判らなくなつた、というほどの盛況裡にである。へ何がここにあるのか、おさりかかって来た。労働者の方に明らかになつたからであろう。

「夏祭り最終日」。天王寺の野外音楽堂で右翼の

題例至日集会が開かれると、実行委は少々緊

張くなりた。対戦させたりの対応と、負傷者への

処置を真剣に考えざるを得ない状況があつた。

日本暮れ、盆踊りの始座である「すどう大會」と物語者が興じてゐる時である。情報収集活動中の私服の足元でおさりかやの爆竹が破裂したことから、参加者一名が逮捕されたのだ。この日の警備は、右翼の大會とあって、三角公園の周囲を私服で埋めるヒュウ、さわめて陰険な方法をとつてこられた。その参加者は圧倒的な私服を取り押さえられ、奮闘するすべとなつた。

オムに逮捕理由などの説明を求めるため代表が西成署へおどく。すると「十時にはつきりこたこと云ふ」と一相違に返される。そこで約束の十時に西成署の十八番とさ云うべきか。

結果として、十三日よりおけなければならぬことは、労働者を出したものの、暴力で溝橋組は、タタキ出された。労働者の武器は足元に落ちて、木片くなくしてその木片が足りないことを、襲外さるを得なかつた。

しかし溝橋組との斗争は、三角公園がノミ屋のもので、労働者のものかという基本的命題を賭して行なわれたものであり、そこあつたのはヤラギラと、ときすまた労働者の憎悪と敵と味方を峻別して対応する労働者自身の秩序の芽生えである。私服たちは労働者と溝橋組との斗争と高見の見物をなかつた。溝橋組との緊張状態が一応解けた三〇後半には、今度は右翼大日本正義団一〇名程が特装の乱斗棒を用意してやって来た。これ以上負けを見るのはくちがないうから、その時は改めて制服大官が登場し、大日本正義団となりあつてろく、行儀よく迷惑されついた。実行委のメンバーは会場を守りきるために、全員青カンでまとめて、一夜に臨んだのだった。二日目は「すうか割り」盆踊りとスムーズに進み、適度の妨害となく終えることができた。

再度西成署に向うと、今度は「お片らには何と話すことなど」と威圧的な態度で座り、代表者新名は文書通りつまみ出されてしまつた。

祭りのヤクザから、こういふ事情を労働者に報告されると、祭りは中止し、すぐ抗議行動が起つた。

抗議のデモが三角公園を少し出た所で西成署直轄警署に阻止される。一相違にたゞの二度目は完全に突破する二事が出来た。ところが西成署玄関前に到着した時である。先頭から順に座り込みを開始するみななりかヒロウ時、先頭ヒロウは私服の手に上り、アッヒーラ向に署内に連行されつた。

これは挑発以外の何事でござり、信じられないよみ光景が展開される。抗議する労働者の頭上にはナチス棒を振り降ろされる。又、何名かが連れて来る。

強制連行された者に何う逮捕理由はない。強引に云ふは道路交通法違反ぐらいか。となると西成署が立て得る大義名分はただ一つ「淫靡保護」である。

警戒法第三条第一項。「精神錯乱又は泥酔のため自己又は他人の生命、身体又は財産に危害を及ぼすあどけのある者」は二度を保護しなければならない。この規定は保護期間が二十四時間を越えざるゝだけではなくなり。これは戦前の「保安処分」と何ら変化ない。ここには「保安処分」とそのものの責をみことる二点がある。一つは「なまこ」が平然と行なわれるその根底にあるのは警察官個々の、専門者に対する

翌朝、多くの参拝者が身柄拘束證と合わせて成署から出て来た。ある者は「お方は泥酔保護だ。お方は泥酔保護だ」と有無を云々せず保護房に放り込まれ、ある者は「ホラ猿が入って来た。ホラ、ツメケ

「エテ公」とよぶりそのくじれに。
「夏祭り」は多くの泥酔保護者と逮捕者で、その暮
れを用ひてしまれなかつた。よりラジカルであり陽
気な「夏祭り」に引きつけられ、それは浪速区内に相
づくと展開されたのである。

八月十八日、逮捕者11名中9名の勾留請求がなされ
毎年の5月生起した大暴動以来現在までの逮捕者
を総計すると、すでに三百名を突破してゐる。今年
のメーデー事件以来の逮捕者は、三月二十日、右二十九名

盡絶な彈圧状況ととに、そつゝの状況を取行自然
が造り出さざるを得なかつた諸斗争の高揚とそれを
支えた労働者の自立であろナ。そつゝに状況と一
現実の労働者の利益を守り、人々に運動とて奮闘
せしむかが、現在の釜ヶ崎に向われていつのであら

光
美
詩
二
七
六
乙
一
九
〇
三

A 氏が、鉄筋の移動作業中足がそれてたれれ、押つけられたマニボと鉄筋の間に左手親指をはさまれ、

打撲、捻挫した。現認書をとふくふ書いた事も頭は患部医院、住之江病院へ連れていった。

然をあつて、包帯を手に左に回つた。勞作者を太股下の取扱いをする医者、人間でと太さと金を多く出力方を大切にする。これが今も多くの多くの医者の弊である。也二下は医者殿、お前さんがたの身の回りを見ればいい。お前さんが使つそのの中でも労作者が作つたとの外のものがあるか。家が物を生産するか、

院長は通院七日と書いただけで、明日又仕事に出るとA氏が云つた。明くる日A氏は痛む左手をかばひながら仕事を出た。光洋の手配師は云う。

「仕事はせんととええ、がくがくことけ」と、親身にそらなこつ云葉の裏に、勞働者を泣かせる無事故ヶ月という数字が浮き出てくるのである。労働者の事を思うなら、傷みなみるまで休業させれば良いのである。人身事故の多い会社は、労働基準局に

れ、尋問なほせりと開始された。残りの2名は17、18日にそれ各自釈放され、拘留請求があつた9名中2名は逮捕中求命令でとつて起訴済みであつた。拘留請求のあつた9名のうち6名は請求が却下された。起訴された2名はやむを得ないとして請求の通つた、どう一員は放対のミスで処置の施せなかつた労働者であつた。事態とあわて乱暴された検察側の準備告とすべて棄却されたのである。「起訴でござるとの早づかぬ」という検察側の方針は逮捕の不当性を二まみすための方策であり、たうた2名とも起訴できなかつた事実と、拘留請求するまどとに通らなかつた事実は、当日の警備のいいふゆふを如実に証明していいだろ。

起訴された不伦のNさんの容疑は道路交通事故法第
十六条第四項第四号違反ヒ一〇至くお話しとなりま
いそのだつた。「石、カラスびん、金属片その他道
路上の人、若しくは車両等を損傷するおそれのある
物を投げ」たというのである。これは交通のひんば
んな道路において遊戯をしてローラースケート一
ヒ全く同じ罪状であり、ただただ警察側のメンツを
保つためだけに起訴されたことな云うが如き。

繩絶な彈圧状況ヒとそに、そアリカ状況を取内自由
が造り出さざるを得なかつた諸斗争の高揚ヒそれを
支えた勞働者の自立であろナ。どうレツに状況ヒ
理奥の労働者の利益を印リ、人々と運動ヒて此整備
させらかが、現在の釜ヶ崎に向われてレバのアリ有

金子崎 教授論
レジンの歴史

(5)

にうちより、立入検査をヨリとリラ・それを防ぐたり
し、労働者が泣かされたりのである。危険な作業
現場を安全にして事故をへらすのとなく、労働者の
屈辱的犠牲の上に無事故メケ月と書き出されるので
ある。

労働者曰さん、自らの身体を守るために、ヨリ
に立ち止まなければなりません。そことなり限り
労働者は常に資本家の犠牲になつてしなければなら
ないのです。私は早急に光洋、国光、ヒサフミがかけ
を見つけなければならなかつた。

「君、さよろは乱天へ行つてくれ」と日雇いの丁氏
が云つた。彼は日雇い労働者ではあるが手配師と信
用され、一応日雇い仲間の班長と二名目であった。
手配師を引っぱり出すのは、この丁氏と、それる二
人である。私は「行かな」と云つた。想つて丁氏
は、「僕の云う事を聞けないのなら他の現場へ回
てどうう」と、力り加えて休憩室を出て行つた。す
ぐにマイクロバスの運転手が来てつあ、さよろは
三五へ行け」と云つた。私は少く抵抗したが折れて
三五へ行つた。なんど手配師を引っぱり出す手だ
てを考えながら。

《序文》

年間一二百名の行旅病死者の死を生かすために! モチモチと具体的的徹底的全面的な調査研究を!

金ヶ崎では、我々の友であり兄弟である労働者が
毎年三百名以上、行路病(行倒れ)者として殺され
てゐる。多くは所持品もなく身寄りなく無縫仙ヒ
して……。ある兄弟は路上で青筋中に凍死、また
別の兄弟は酒に酔つて三枚と首をつぶ込んで倒れる。
しかし、一方肉体的生命の「生」は必ずしも社会
的生命の「生」を意味しない。「死んでいたくなくて
そ、我が下層労働者の社会的生命は、日々死に至ら
くめられこじる。資本家とその祖先」「専門家」。

学校出でたて、下層労働者が厂史の主役たる「ヒ
ヒを隠蔽され、單なる社会のツキ役だとこまかされ
て三百名行路病死者の社会的生命の死は、二
万名の金ヶ崎下層労働者の社会的生命の死の代表で
ある——我々は今こそ、彼らの死をし乍らせず生
かさなければならぬ。そのためにはまず「下
層人民に服務する」立場から、とことんヒーヒー
の事例について、徹底的・全面的な調査——彼ら

幸い、本当にうまに具合いい、私はその現場で負傷
し、治療石うけヒ医の室へ行つたついでに、外出
し、同窓に電話をして、医者にさわらぬから応援の方
をとこう事を伝えた。

私は医休日再要、丁氏と抗やした。「あんたと並んで
労働者なら、俺と釜の労働者や、労働者同が何で命
令したりされたりせなあかんねや。お互ひ、なほい
合ひながら生きてにならあみんなのとちがうの外、あ
んなのおなはで俺は皆と負傷した。責任をとれとは
云わんが、何とか云え」とよくよくたどり。彼はハト
か豆鉄砲をくつたよろな顛をじて「手配師専門で来
るわ」と云つた。

私はすら書きとありと運んでいた。
丁氏を光洋側の人間とは思つてなかつたが、彼の手
配師へつらう毒は、私自身の今までとつて来た
態度で片つたために、私自身に向けられるべき挑戦
を遂に丁氏にぶつけてしまった。日当たみだみ二千
二百円で労働者の體を切り売りこじて自分をはず
かしく思うと共に彼をミリの渦に巻き込み、へつ
かりを怒りに轉化させることを思つた。

《玉井五郎》

家の「宗教家」「坊主」共は、先祖たちの死を生
はつたい誰にとの上へとて殺されたのか、つま
るにへつらう妻は、私自身の今までとつて来た
配師へつらう毒は、私自身に向けられるべき挑戦
を遂に丁氏にぶつけてしまった。日当たみだみ二千
二百円で労働者の體を切り売りこじて自分をはず
かしく思うと共に彼をミリの渦に巻き込み、へつ
かりを怒りに轉化させることを思つた。

壁、及び、その原因ヒココの、眞の友と团结して真
の敵を攻撃する事が出来てなつて破裂さざる

友人諸君! 以上呼びかけにこたえ、今すぐ共
に行動を開始する際、そくそくやる努力を訴えた
。(7)

※なお、引きつづりに仲間をつづらま者「用な
き者」とこと、隔離・管理するためさくみなし精

精神病院——釜ヶ崎の方はほとんど、東洋に集中する
名精神病院に送り込まれる。「鬼の安田」、蛇の園

「彼女の立場に立ち、へ苦くせ、へやくせ、へ二流共育して」など云々。

分（病院）……」などヒリヤウの異態に入

三

患者追跡調査をやつてしまつた。また「犯罪」という形で「怒り」を負けて方向に「爆発」させ拘置所・刑務所に送込まれた人の方の調査をやりた。

一九七二年九月二十四日(二十五日加筆)
岬びかけ人有志(連絡先=大阪市西成区東田町44
金ヶ崎医療左衛門公会付、電六三一-二二二八三

増取なき金由の玉、直に取らん

金・銀・銅・真珠等の最終日は「日本一の爆竹店」と名打つ「東京爆竹店」で、「暴行罪」を大口子あけられ西成署に逮捕されまくした。斗争労働者の抗議・救援の方々・弁護士の人々の努力のおかげで、西成署一地検の拘留請求、東京検察等の陰謀を打ち碎き、19日釈放を勝ちとる二二〇が出来ました。二二〇に同志友人諸兄への感謝の意を表わすと共に、更なるオーバー化に決意表明を行なった」と思います。

暴力支配、暴力団、警察との四八時中の緊張関係、明日の身知れず、持ち物は紙袋一枚、体力尽き果て

よ。」と鼻を通した声で握手を求めてくれた男が差し入れたヒヤツでスイカを十個を齧つて来て「食えや。」ヒヤツでくわにわっさん、十個を食いきりのままわりの人に分けてまわると「あんちやん贋の失くなるで、早よ喰えや」と心配顔……。

「大変だ」と、でこどもとアーチを並べて、
報を聞きつけ駆け込んで来た人、あつさんのうのうの
二つの手を握り口が合へこのまゝに、なにか何でも
見るやうならん」と思ひ、一二までの信頼を勝ち取
て来た金の活動家に対して頭の下がる思ひでして、
第1は初めての試みであるのに、多くの師竹者を
集め、特に孟踊りは、身振りはほんと目茶苦茶、
流れと反対方向に踊ってまわる人がいたり、活氣
満ちていて、いかに金の师竹者に樂しみを限られ
いるのかといふことを感じさせられ、「歌を踊れ
こそ、田舎・民謡とは突然ちがうもの「生々しく

※定期制高校が更に解体されてへつるに学下支那
所へ、恵と莫々と変じ、董ヶ崎に存在する。出稼
の父を破滅の想ひで筆に居るから、子は集団就職不
上策、定期制高校に通う。家へ戻らぬ父、金を送り

父の手に落とす

秋山則天の父を恩上！ くなく、やがてその子と
市民社会から最後の一撃を受け叩き出される。定期
制高校生・中卒昇付者→釜の関係は下層社会の悪夢
一般的な流动現象ではあるまいか、定期制の解放は、
釜ヶ崎の解放なしにはありえまい。釜の斗争とくつ
かり結合して定期制を打つ決意である。

暴挙にて、我らは公然と擲葉放葉を呼びかけ、校庭でヘルメット集会・示威を行った。その翌日以降、サーキット園に集まる若き勞働者の眼が違つた。

その眼は確実に政治を求めていた。資本主義社会を打倒する共産主義の政治を求めていた。同じだけ三角公国で「暴力团の襲撃を強烈く、西威署に抗ぎる」という釜共斗の立て看に群がる労働者のひとりが興奮して叫びだしたのを覚えていた。「十一番振り仕事をするのがわからん！」労働者が年に一度の祭りとやうのがどこか悪戯！ 二の三角公国は、ヤクザのものだとねえ、ボリ公のものだとねえだれのものだとねえ、わくら解説者云々云々だ。」「ボ

「彼の立場に立ち、〈話〉せ、へやへや、<二>(波)

104

一九七二年九月二十日（二十五日加筆）
呼びかけ人有志（連絡先＝大阪市西成区東田町44
金ヶ崎医療会議会員付、電六三一一二三八三

國山取らん

門に行路病患者として「ケラ」治療を受けて死んでいく。否、殺されていくという筆の崎野作者の生活が比べられ、まだまじめに都下生活、市民生活に近い。

「生活を送つてます。路上で手しりや日用雑貨屋
が売られていいEリ、Gパンが六十円だつたりした時
は、ぼくには異質に感じられました。そんなぼく
が、三國公国の中の武骨な英雄たちやグラのまゆ
りに居ると、釜の労働者と何度も声をかけられました。
」「学生さん、わくはあんたうが好きやで、奥け
は飛ばよくなれくらひた」なヤンコヒ、二人立派
なメタラまでニニえてくれて。祭りや、盆踊りなど
このほんとに何年ぶりだ」「頑張れよ！頑張れ

は父に糾く子は憎悪の念を持つ。
秋山則天の父医恩士！ くなく、やまとさの子と
市民社会から最後の一撃を受け叩き出される。定期
制高校生・中卒昇竹者→釜の関係は下層社会の思
想的・行動的現象ではあるまいが、定期制の解放は、
釜ヶ崎の解放なしにはありえまい。釜の斗争とくつ
かり結合して定期制をオラ決意である。

去る五月十五日沖縄人民の血の叫びを踏みにじる
暴挙に対する、我々は公然と擲業放棄を呼びかけ、
校庭でヘルメット集団・示モを行った。その翌日从
ら、サーウル室に集まる若き昇竹者の眼が違った。
今更は、唯我二枚目を求めて一回。資本主義社会を

打倒する共産主義の政治を求めている。同じだけ
三田公園で「暴力団の襲撃を強烈に、西成署に抗
議する」という釜井昇の立て看板群がる労働者のひ
とりが興奮して叫びだしたのを覚えている。十一番
通り仕事をするのがめらやンコじや！労働者たる年

に、腹の熱りとやうがかかるがここが悪し。この三日公
は、ヤクザのものでもねえ、ボリ公のものでもねえ
だれのものでどねえ、わくら用物者のものだ。」「ボ
リ公なんやあか」とそえ行くねえ、奴ら税金飞喰つ

ごろくせに平氣で主人の労働者をなぐり去る「ヤジ
やかけ声を回りに、辻統法を統するか、さんの額に
汗が流れた。一労働者が正面から矢下に倒れて異議
を申へ立てる。大の名ヒツ政略を語る。ここから
革命が始まりました。このから始まるのだ。文字とおり
「労働者の社会主義的積極性」である。この実を是
時労働者と大いに持つていた。何故「朝七時に起
き仕事に行き、学校に行き、十時帰り、あとは
寝るだけ。給料は安く、卒業しても何の保障がない。
孤独で頼れる友も少ないので、そんな生活に、疑問を持
とうにいられるだろうか。自分で生みせしめている
この、資本主義という怪物にだけたとき、オーバー開
始される。殘念ながらこの積極性は、創価学会、若
い根っここの云々、民膏、鮮に多くを吸収されてしまう。
毎年依頼金労働者、中卒者、都市の底辺の怒れる青
年たちを解放するオーバーを定期制の最も抑圧され七月
七日結びつけて定期制大反乱としてぶち抜くこと、二
ヶ月の金の袋の斗争に対する解答である。金ヶ崎は
毎日無数に存在し、定期制こそ存在すると共にまた
一つである。すなは万金のオーバーを孤立させてはな
れないと云ふことである。西京署にて金ヶ崎の力

日付	斗争名	逮捕者	種類	起訴者
五、一	メーデー斗争	二名	現	〇名
五、二八	鈴木組斗争	二名	現	二名
五、二九	(反乱)	六名	現	二名
五、三〇	(反乱)	五名	現	二名

金ヶ崎に於ける弾圧状況

日付	斗争名	逮捕者	種類	起訴者
四、一	メーデー斗争	二名	現	〇名
四、二八	鈴木組斗争	二名	現	二名
四、二九	(反乱)	十名	現	二名
四、三〇	(反乱)	五名	現	二名

(10)

金ヶ崎は活火山である

そこには怨念のマクマダラを巻いている

復讐の炎は、ドス黒煙になくなれ

メラメラと不気味とぞえづける

うつ積された怒りのエネルギーは

由さざれた堅玉殻を打ち破ろうと

侵蝕し続ける

となくこくまえ

噴きあわる

尻辱の境界を

まやかの広野を焼きつくせ

アル中・流・乱暴

吉川

ル

ランボウ

共を残らずアケル」とわれき敵なし、労働者千人の
中に私服二百匹を入れてくる。

全曰支援組の確立、これがオニの解答である。

西成のテカよ！オトシマエロ必ず付ける

金ヶ崎解斗争の勝利万歳！暴動勝利、西成署粉碎

仲間を即々解放せ！

若年依頼金労働者解放！定期制反乱を出で抜く

ネエ、アロレタリヤ革命派の大連合を！」

解放戦線を建設せよ！

世界革命戦争勝利！

〇×高校定期制解放戦線 労働者〇〇団

八月一日から九月十四日

（山田俊治）

総計	日付	斗争名	逮捕者	種類	起訴者
六、二八	六、二八	鈴木組斗争	六名	令	三名
七、一	七、一	(抗争)	三名	令	一名
七、八	七、八	鈴木組斗争	一名	令	〇名
八、一五	八、一五	夏祭り	二名	現	二名
八、一六	八、一六	（ハチン）屋事件	四名	〇名	〇名
九、十一	九、十一	（反乱）	一名	〇名	〇名
九、十二	九、十二	（反乱）	一名	〇名	〇名
九、十三	九、十三	（反乱）	一名	〇名	〇名
九、十四	九、十四	（反乱）	一名	〇名	〇名
九、十五	九、十五	（反乱）	一名	〇名	〇名
九、十六	九、十六	（反乱）	一名	〇名	〇名
九、十七	九、十七	（反乱）	一名	〇名	〇名
六五名	六五名	六五名	六五名	六五名	六五名
ナセ名	ナセ名	ナセ名	ナセ名	ナセ名	ナセ名

人體植訂正

P 2 上段4行目 駆毒レ隔成

下段4行目 指示少體製

P 5 最多の行、4字用の空白以

P 7 下段4行目 家少今

P 8 上段2行目 名少各

P 13 共同筆業の一層の、の筆者由甲科堂取

『持続した斗争の基盤を！』

釜ヶ崎には多池生活館、愛隣寮という公共の家族の入れる住室がある。そこには入居者の子供の保育所もある。しかしそこの入居するには住民登録が、この地域に登録してあって、高給取りしか入れない。くくみに守ってある。釜ヶ崎労働者の多くは、過去に反法規的労働をして市民社会から追いやられて来たり、何らかの形で権力に抵抗して監を求めて流れ流れて来たのである。だから互いに本当の過去は知らぬたくないし、聞かないという。住民登録どころではなし。「生活館」「愛隣寮」などといふにそ命名者のためのものであるがのように存在していながら労働者のためとは何一つしていない。

は、乳児を殺したたりでそこにはければ生きてはいけない
最近新聞でよく見るが、そこの「母が子供を殺した」
ところで、この母を犯罪者としてせめう」とか出来
るだろ? な。優生保護法が改悪されようとしている
現在においては、いつも深刻な問題である。又、子
供が大きな家庭ではや。パート三疊一間で親子三人暮
らせは当然子供は性的に早く目覚めてくるし、夫婦
やしづきの夫婦に見せつけられ、子供にあたり散ら
す親子の、二つ三つ状況の中で将来子供が何を考
え、どう行動していいのか、結局はやうやく等の反権
力、反筋地者と吸収されてしまうのである。

金の端の夫婦者は子供がほんつか、子供をつくら
はあつかつてくれる所がないので、女は付けなくす
る。子供をつくる事は働く事をうばい家事労働に、
くびりつける事を意味する。それと夫一人の収入と
た上れば日雇いの家庭では重労働の夫は月に十日、
十五日か労働の限界となり、保健の取扱いは1月(日)
雇い労働者は二ヶ月に二八日負けは次の二ヶ月間、
保健を使える)と病氣とでどちらかは一家心中か、又

今、天婦の側をとつて書いたが、一一七は単身業
が空体の七割近くである。一一七女と女たゞけな
いのは、警察、マスコミ等の偏見による大衆への差
別的発言一つか行く。

さうした弱者を「弱務者」と呼び、人間としての尊
仰者としての権利を主張した者をパクリ、酒をの
だ、のまなりにいかかめらす泥酔保護のなくわいせつ

共同作業の一層の拡大を
アシテ奇の二年一月一
アシテ。國交の中興に貢

中でリニ子をじこじる。母子の「蜜月はいい」の状態に劣化者を押しつけようとしたホリ公は日夜活動してリコ、劣化者が泣き叫びにオッてじける、持續した斗争のエネルギー基盤をつくりはじめた。

夫婦の意志に基いて自由に子供を生める斗争を共に調査、研究を通じてやっていった」と考える人は編集部まで連絡を。

釜ヶ崎解放の斗争を一部の活動家の独占物としていたために、共同作業へ集団で参画して何かをする機会を増やしていくための、いろいろな試みが行なわれた。

昨年まで、僕達は組合(全満鐵西成分会)の中、専門者の大講座参加をして、國交を一つ一つ積み重ねてきました。

に付いた。國交の申騒でさうして店題があつた
けれども、毎回參加者が増大し、どう専外者が増えて
いた。しかしとれども、爾頃一時金へセ(一年處)の
販賣方法をめぐって、組合幹部との対立へ組合費
の徵収方法を天引きとするか、自主カンペにするか
でもう、彼らは大家互信難しく自主カンペにするべ
き主張し、全港連幹部は、そんな點では組合活
動に必要資金を集まらぬことに拒否し、ケンカりか
になつた。それで、彼らは組合活動から離れた。

以後組合と、俺らとの対立は深まり、組合は大衆参加の活動を否認する事になった。這一回やつては、分会集会は、会場がないという理由で中止し、二三ヶ月で一回や、これた大阪府同交も、府上の密約によ、この中止した。どちらも今日に到るまで行なわれてこない。組合幹部の請け負い主義、代行主義は一層強まり、大家の批判に耳を傾けないと云ふつた。

昨年暮の年末一時金斗争、今年夏の一時金斗争に、また今一度アツ・大衆団交をも、ついで、昨年は建設業協会と大林組、今年は竹中工務店と、そこも、そろした圧力をかけないとい一時金斗争のメドが立たぬから、大歓をコマドして使つたようだ。最後のまじめは、いつもボス交を行ひ始め、総額がいくら出て、分配口とのつなづとして決定されたのが、全て数人の幹部で秘密裡に決りられ、たぶんとも教えてもうえない。代行主義、請け負い主義、秘密主義は、労働者から積極性や行動性を奪い、十組合にまかせこなけばよしと云つたが、請け負い主義、お願い主義を生み出していく。

以後、僕は個人として、文化、体育活動と医療活動を専門者の側から行なって努力、萬本家の側から二月、三月前半でよく行なつた。西成署防犯課員が、半耕半作の「農業サークル」、裸の会、農業音樂隊の定例演奏、防犯指導、田舎奉仕団などの活動がつり、防犯」「十一生産體育診断、異々く、遅々暗く猛烈で、労働者から積極性や行動性を奪い、十組合にまかせこなけばよしと云つたが、請け負い主義、お願い主義を生み出していく。

八益ヶ崎が竹者の共同事務所一時金の会議立

八益ヶ崎が竹者の共同事務所一時金の会議立

しかし、実際には金がないにたり自己実現しながら、や、どある専門者の取扱解雇のオハの中からえ天金を申立て、多くの人の協力にて、五月二〇日、事務所開きをすることができた。むつかしいタチマエや規則を作らず、せいだに人は誰でも選出委員会の許可をえては使える事にした。そのため「あんなもんは、つやつぶれる」という風で、いた。しかし、四月だ、正今も創設者がつぶれずに存続し、とり引て、この闘争躍してくる金井洋介へ暴力半筋節造反を繰共斗会議にて、これは、その運動

八越冬対策の中から

その後、西成分会は年末一時金斗争を取り組み、それに復活を参加しながら、独自に「越冬対策実行委員会」を作り、西成分会にも呼がけた。分会は、参加すると述べながら「一時金が解決しないれば、越冬対策はできない」と云ふ、結局一時金解決後も、一時金贈布(タオルをそえて)以外何もしなかった。

俺らは、前年の経験から、「同情して、救つて」という態度で反対し、それをなくすため、労働者との共同作業を追求した。(文化、体育活動を除くと、やはり、助ける者と助けられる者と)「う關係の中にある「いやらしさ」へこの言葉が、斗つからなりしめだらなもので解決しきることはさうなかた。

しかし、前年と同じ、文化、体育活動(ソフトボール、ペナント等)、すもう、歌と自慢、もちろん、医療活動が行なはれ、「俺たちの正月」(つまり、医療活動が行なはれ、「俺たちで作ろう」というスローガン)、新しく共同作業ができることは、一つの前提だ。た。

このからの問題として、共同事務所とはいはねば、実際には、金井洋介の専属事務所のようであら、代行として、活動家以外の労働者は使用していく。労働者が入り、もとより、集会もやるようだけれど、労働者が誰でも使いやすいう雰囲気をもつた場所がほしいと思つ。

越冬対策委員会医療班が、恒常組織として、

「俺たちの体は、俺たちで守らう」とスロートがんとして、金ヶ崎医療班を考える会になった。この医療はほとんどなく、少數の人間の請け負い、この医療はほとんどなく、少數の人間の請け負い、代行大口りがちである。(詳しい報告は、医療を考える医療團誌)のちに参考して下さり。二月、こうした問題を克服するため、病院との患者会を作ろうと努力して云ふ。やはり、運動の主人公をし、カリと作り出したいから云ふ。

少數の人の代行、講演會となり、事務室、告示
屋になってしまった。

（第一回）金を歸屬せしりの成功と困難

越冬対策の文化、体育活動は發展せたため金子
一千に於て、二千五百、銀行運営会が作られた。
最初は西成分会の下に銀行運営会を置いたが、
だ、正味、三日間に亘る、突然、銀行一時金が解
決していなじみで延期してくれと言ふが、多
くの筋筋者が半途通り銀行運営会をやめることを要求
したので、西成分会はあつて、金共三万円を差し
て金、其國の人々が申立てた、半途通り人
た。

四月十三、十四、十五日の三日間だけ、この行はれ
た。

しかし、救援金のレポートもあらずに、公園
小便用栓を止め、音楽工芸部をやつこいのヤク
がと起きたが、たり、銀行を鳴らして市議會に
り、ここの筋筋者がペクら出だりした、それへの
対応をやぐつて、銀行運営会が開いたが、義
一として糸指は出されなかつた。

の社会の萌芽を含んで、ベガトナム南部解放民族戰
線のさうな経験をもたない故に、斗争と文化、
体育活動を対立してモノと考え、統一する二つの方
式にて行なわれたため、斗争を離れてしてい
る上、斗争と文化を分離する田舎圓生塾、大英会
議所で、斗争と文化を統合していこうとする過渡主義に隨ち入る程
度、斗争もそうであつたと曰ひ批評していふ。ヒ
カル・スミスは、この間、斗争と文化、体育活動を闇から否定する極左特權派と大分
かれた。ハニは毎日三日間の審察への抗議行動の
権力や資本との斗争の歴史に繋は、文化、体育活
動はとその他の自祐民主主義の「テル」をはらり、
度に斗争がなされため、人気とり政策として一貫宣
傳や反對がなされていける。文化、体育活動を行
なうという左右の競り合簡いから、政治的立場ヒ文
化、体育活動ヒの対立を克服し、どちらの辺にも労
働者の共同作業として、統一的に行なつていかなければ
出来ないなり。